

# よしのっ子

明るい笑顔 学び合い 高め合う

学校だより No.10  
令和4年 2月8日  
吉野町立吉野小学校  
発行者  
校長 畑 秀行

## 閉校まであと少しになりました

感染力の強いオミクロン株の影響で、瞬く間にコロナウイルス感染症が拡大しました。奈良県でも一日の感染者数が1000人を超え、その後も減る兆しはありません。2月の中旬頃が感染者の拡大のピークになるのではないかとされていますが、どうなることでしょうか。

この影響で、今学期に予定していました授業参観は残念ながら中止にさせていただきました。3学期は、卒業式、6年生を送る会など、卒業に向けての取り組みや学年のまとめとして、全校で取り組むことが多い時期でもあります。特に今年は、閉校に関係する取り組みもあります。できるだけいろいろなことができるようにと考えていますが、仮に予定している頃の感染者が少なくなったとしても、事前に準備の期間が必要ですので、1ヶ月前のコロナの拡大状況にも左右されることとなります。「コロナがおさまったから、できるのでは…」と思うこともあるかと思いますが、その点のご理解をいただくと、とてもありがたいです。とにかく早くおさまってもらうことを願うばかりです。

さて、閉校まで2ヶ月を切りました。荷物の引っ越しも今学期に使わないものから少しずつ行っています。先週は図書の移動をしました。職員で廃棄図書の選別を行い、持って行く本を図書ボランティアさんに箱詰めにしていただきました。お手伝いありがとうございました。

また、小中一貫教育校では、小学校と中学校の授業の開始や終わりのタイミングが合うときだけしかチャイムがならないので、時計を見て行動する習慣づけとして、今週は“ノーチャイムデー”を実施します。今までは、チャイムをたよりに学校生活を送っていたので、ノーチャイムデーでは「気がついたら…」ということが、子どもはもちろん先生たちにもありそうです。3学期からの着替えのこともそうですが、吉野さくら学園の開校が近づくと、いろいろな課題が見えてきます。

“吉野小学校ありがとうプロジェクト”の取り組みも全校で考えていますので、とても忙しくなりそうです。

### ◇学校評価アンケートについて

お忙しい中、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。結果につきましては、3月にホームページで報告させていただきます。

### ◇ユネスコ巡回絵画展（吉野郡）

- ・2/9（水）～14（月） 9時～16時（14日は15時まで）
- ・吉野町中央公民館1階ロビー
- ・受賞者のご家庭には、個別にお伝えしています。

### ◇ウサギの里親を探しています

現在、本校で飼育している穴ウサギの「ネッシー（5才）」ですが、残念ながら吉野さくら学園での飼育ができないため、里親を探すことになりました。受け入れを考えていただける方がいらっしゃいましたら、学校（32-4333）までご連絡をください。



## 「あなたはあなたのままでいい」桑田真紀

ウーバーイーツのCMに起用され、特徴のあるメイクが話題となっているタレントのマットさん。桑田真紀さんは、そのマットさんのお母さんでありマネージャーでもあります。出版された「あなたはあなたのままでいい（講談社）」では、“子どもの自己肯定感を育む”桑田家の子育てが書いてあります。実体験なので、とても面白い内容で共感するところもあると思います。抜粋してご紹介します。

### 1.ひとつのことを無理にやり通させない

ひとつのことをやり通すことは美談と思われがちですが、もし、子どもが嫌々やっているとわかったら、親が才能を感じたとしても潔くやめることも大切。無理に続けさせるより、まわり道しても好きなことを見つけてあげる方が有効だと思うんです。

### 2.気持ちは言っても意見は言わない（口を出さない）

子どもの考えや行動に“口を出す”のではなく“口に出す”。親だって人間、すべてが正解を言えるわけではないので、不安な気持ちを“口に出して”子どもと一緒に考えてみることをしてきました。

### 3.先回りしない

子育てを通して実感したことは“先回りは遠回り”。本来するはずの失敗や経験がすっぱり抜けてしまうし、考えるチャンスを失ってしまう。結果、子どもの成長機会を奪ってしまうことにもなるんです。

### 4.親が答えを出してあげない

答えて親の欲ですね。悩んでいる子どもの不安を聞いて導く作業は手間がかかりますが、“自分で決めた”という体験をさせてあげないと親のせいになしがち。自分で決める力を育むことで、責任感や強さも生まれます。

### 5.「頑張れ！」と言わない

親が思う方向に進まないことで、ストレスを向けることがいちばん注意したいこと。強制的な『頑張れ！』ほど、子どもの重荷になることはありません。子どもが何に興味があるか観察しながら見守り、子どもが必要とした時に必要な形でサポートをする。

### 6.“ながら聞き”をしない

仕事を持つ忙しい方なら、夕食時でもお風呂の後でもいつでもいいので、料理したり、携帯を見ながらの“ながら聞き”ではなく、きちんと向かい合って話すことが大切。ゲームのことで何でも、子どもが興味を持っていることに同じ目線で話すことで、子どもは親をよき理解者として心の扉を開いてくれます。

### 7.否定しない

、頭ごなしに否定をすると子どもはそのまま心を閉ざしてしまいがち。まずは歩み寄り、そして結論を急がない。

### 8.他の子と比較しない

“普通だっていいじゃん”と思えるくらいの方が、むしろその先につながる子どもの“好き”を見つけられるのではないかと思います。“できるよ”“大丈夫だよ”など肯定する言葉が子どもの安心感を育み、自信を持って自分を発揮できる強さを育めます。

### 9.目は離さない

きちんと子どもを見ることって簡単なようで難しいこと。同じ目線で物事を見て、心から子どもを肯定し、正面から向き合ってあげることで、外で失敗したり、不安なことに直面しても強い心を育めるのではないのでしょうか。

# 子どもたちが考えた給食がでます!

家庭科の授業で行った「給食コンテスト」のメニューが給食になります。当初は、優勝チームの献立のみが3月の給食になる予定でしたが、どのチームも甲乙をつけがたいくらい魅力的な献立でしたので、各チームの献立から1品ずつ、給食に出ることになりました。

また、同じく家庭科の授業で5年生全員が考えた「オリジナルみそ汁」も給食に出ることになっています。

(6年生)

【優勝】「栄養満点”冬が旬のあったかメニュー” …3/12(金)  
ゴボウと桜エビのかき揚げ、白菜と豚肉のとろみ炒め、コンソメスープ

【入賞】「冬の人気メニュー」 豚肉と白菜のクリームシチュー …3/4(木)

【入賞】「人気の給食」 シャキシャキパイナップルサラダ …3/10(水)

【入賞】「心も体もあったかメニュー」 大根サラダ …3/11(木)

【入賞】「校長先生の食べたい料理」 さつまいもとかぼちゃのシチュー…3/18(木)

【入賞】「冬の野菜を使ったメニュー」 花野菜サラダ …3/18(木)

(5年生) オリジナルみそ汁 …3/17(水) ← 何が入っているのか楽しみです。

行事

見学

学

24(木) 令和3年度修了式  
閉校式

★予定ですので、諸事情により変更になることがあります。学年だより等で再度ご確認ください。

## 「あなたはあなたのままでいい」桑田真紀

昨今の子育てにおいて“子どもの自己肯定感を育む”ことに関する情報が溢れる中、結果がすぐ出るわけでもなく、正解の見えないこのテーマは親として迷うところばかりです。決してブレず、気負うわけでもなく、子ども本来の姿を見守りながら「あなたはあなたのままでいい」を貫いてきた Matt さんの母・桑田真紀さんの子育て法をお聞きました。

桑田真紀さん

ジェンダーレスや個性重視を具現化したような存在として話題を呼び、現在タレントして活躍中の Matt さんの母であり、現在は彼のマネージャーも務める。夫は元プロ野球選手の桑田真澄さん。著書に自らの子育てについて語った『あなたはあなたのままでいい』(講談社)。

アーティスト的なメイク、デジタルを使った“Matt 化”など、Matt さんの登場には誰もが驚かされました。自由奔放な彼の父親が、元プロ野球選手の桑田真澄さんであることも大きな話題となった反面、メディアに現れた頃はバッシングもかなり受けたそう。そんな状況下にもかかわらず、自分のやりたいことへポジティブに突き進む Matt さんの姿は、むしろ清々しいとさえ感じてしまうほど。子どもと向き合うことを怠らず、口を出さずに、いつだって我が子の応援団長でいることって簡単なようで難しいことですよね。そんな桑田真紀さんのお話から見えた9つの心得とは?

### 1.ひとつのことを無理にやり通させない

「ひとつのことをやり通すことは美談と思われがちですが、もし、子どもが嫌々やっているとわかったら、親が才能を感じたとしても潔くやめることも大切。無理に続けさせるより、まわり道しても好きなことを見つけてあげる方が有効だと思うんです」

## 2. 気持ちは言っても意見は言わない（口を出さない）

「日常生活の中でも『大丈夫かな？』と思う場面はいくらでもあります。子どもの考えや行動に“口を出す”のではなく“口に出す”。親だって人間、すべてが正解を言えるわけではないので、不安な気持ちを“口に出して”子どもと一緒に考えてみることをしてきました」

## 3. 先回りしない

「子育てを通して実感したことは“先回りは遠回り”。大人の経験値から先回りして、つい答えを出してしまいがちですが、そうすることで本来するはずの失敗や経験がすっぽり抜けてしまうし、考えるチャンスを失ってしまう。結果、子どもの成長機会を奪ってしまうことにもなるんです。つい先回りして手助けしてしまう親心は痛いほどわかりますが、ぐっと我慢して陰から見守ることが、子どもの成長に大切なことです」

## 4. 親が答えを出してあげない

「答えって親の欲ですよね。悩んでいる子どもの不安を聞いて導く作業は手間がかかりますが、“自分で決めた”という体験をさせてあげないと親のせいになりがち。子どもって自分で決断したことには歯をくいしばって頑張れる。自分で決める力を育むことで、責任感や強さも生まれます」

## 5. 「頑張れ！」と言わない

「子どもと親はあくまでも別人格。ましてや所有物ではないので、『こう生きてほしい』と親が考える理想を押し付けることは親のエゴだと思うんです。親が思う方向に進まないことで、ストレスを向けることがいちばん注意したいこと。強制的な『頑張れ！』ほど、子どもの重荷になることはありません。子どもが何に興味があるか観察しながら見守り、子どもが必要とした時に必要な形でサポートをする。ヤキモキすることだらけですが、子育てって本当に忍耐が求められるものと感じます」

## 6. “ながら聞き”をしない

「1日に1回、顔を向き合って話すことだけは毎日欠かしませんでした。私は専業主婦でしたが、仕事を持つ忙しいママなら、夕食時でもお風呂の後でもいつでもいいので、料理したり、携帯を見ながらの“ながら聞き”ではなく、きちんと向かい合って話すことが大切。ゲームのことで何でも、子どもが興味を持っていることに同じ目線で話すことで、子どもは親をよき理解者として心の扉を開いてくれます。話すことが生活の一部となることで、我が家は多感な年齢期にも気負いなく心の内を話してくれました」

## 7. 否定しない

「子どもが話している最中に絶対に頭ごなしに否定をしないこと。子どもの話の中には、大人からすると間違っていると即座に突っ込みたくなることも多々ありますが、頭ごなしに否定をすると子どもはそのまま心を閉ざしてしまいがち。まずは歩み寄り、そして結論を急がない。指示をするのではなく、たわいもない会話から子どもを誘導してあげることも大切です」

## 8. 他の子と比較しない

「親ってどこかで何か秀でたものを子どもに求めがちですが“普通だっていいじゃん”と思えるくらいの方が、むしろその先につながる子どもの“好き”を見つけてあげられるのではないかと思います。兄弟間でも言えることですが、できる子と比較をしない。“できるよ”“大丈夫だよ”など肯定する言葉が子どもの安心感を育み、自信を持って自分を発揮できる強さを育めるのでは」

## 9. 目は離さない

「小さい子どもが『見て見て！』ってよく言いますが、子どもはいくつになっても親に見ていてもらいたいもの。きちんと子どもを見ることって簡単なようで難しいこと。同じ目線で物事を見て、心から子どもを肯定し、正面から向き合っていることで、外で失敗したり、不安なことに直面しても強い心を育めるのではないのでしょうか」



**【吉野小HP】**

QRコードが使えない場合は、「吉野町立吉野小学校」で検索してください。